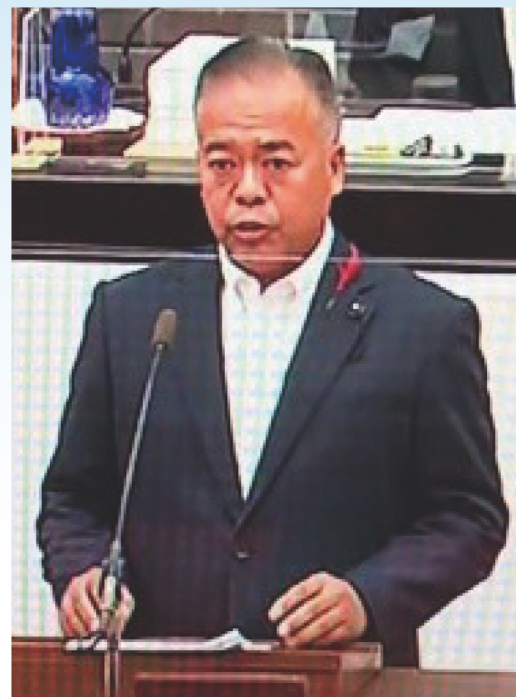


● コロナウイルスで激変した日常

岐阜県においては2月末に初めて陽性患者が確認されて以降、感染拡大したコロナウイルスは、私たちの日常生活を激変させました。4月には国から特別措置法に基づく緊急事態宣言を発令しましたが、岐阜県としてはより早い段階で新型コロナウイルス感染症対策本部を設置して「ストップ新型コロナ2週間作戦」や「緊急事態宣言」を発して、県民の皆様に感染拡大防止対策を呼びかけてきました。外出自粛や「3密の回避」、マスク着用や手洗いの遂行など、日常生活が大きく変わった1年でした。東京オリンピックの延期や各種行事の中止など閉塞感が漂っていますが、岐阜県はコロナに負けない「オール岐阜」体制で、感染防止対策や経済政策など着実に取り組んできています。私は各務原市レクリエーション協会長として、免疫力向上のために「ラジオ体操」を呼びかけていますが、「正しく恐れて、正しく防ぐ」を実践して、コロナ危機を乗り越えましょう！



第3波拡大阻止に向けて

共に乗り越えよう

01 「かからないために」年末年始のリスク回避

年末年始の「家族以外の大人数(5人以上)の飲食」「接待を伴う飲食」など、高感染リスクの場を徹底回避。「食事の前後は必ずマスク着用」も徹底。

02 「うつさないために」体調不良時は行動 STOP

「体調がおかしい」と自覚したら、会食をはじめ外出、出勤、登校をストップ。ただちに医療機関へ相談・受診。体調不良の方は年末年始の帰省をストップ。

03 「基本の繰り返し」マスク・手洗い・距離確保

あなたも「無症状の感染者」かも。マスクは必須。外食後、食事前後、外にあるものに触った時などは必ず手洗いを。

04 「みんなで取組み」家庭で、職場で自己防衛

職場・家庭に対策の担当「コロナガード」を設置し、検温、マスク、手洗いなど感染防止対策を毎日チェック。自己防衛の意識を。

05 「敵はウイルス」ストップ「コロナ・ハラスメント」

感染者本人、家族、所属団体、国籍などに対する「コロナ・ハラスメント」を許さない環境づくりを！ 職場、学校、ご家庭で広めましょう。ハラスメントを受けたり、見聞きした場合はすぐに相談窓口にご相談を。



新型コロナウイルス感染症に対する
岐阜県の対応について(岐阜県ページ)

家庭・職場で 皆で
注意・声掛けを！



前進！ 木曽川再発見プロジェクト

県議会定例会の一般質問で取り上げた「木曽川中流域の広域連携について」をキッカケとして、木曽川のブランド化を目指した「木曽川再発見プロジェクト」が推進されています。岐阜県の補助金として、流域市町の事業を支援するために6月の定例会で補正予算3000万円が計上されました。11月には国土交通省木曽川上流河川事務所が主導して、岐阜県と愛知県の県境を超えて連携強化を目的として7市町で「木曽川中流域かわまちづくり協議会」が設立されました。更なる施策推進に、全力で取り組みます！

木曽川広域連携に対する私の思い

- 各務原市の歴史や文化を再発見する機会として、ふるさと教育の推進や地域住民のふるさと意識の醸成
- 観光資源発掘や既存集客施設の連携と有効活用による交流人口拡大と飲食などのサービス産業の振興
- 各務原市及び木曽川流域の国内外に向けた対外的発信力向上、移住定住の促進
- 木曽川流域の市街化調整区域を地産地消や観光農園振興、食品加工（6次産業）推進によって活力創出
- サイクリングロードの拡充やウォーキングやジョギングコースの整備によって健康推進策の増進

木曽川中流域の集客県有施設

河川環境楽園、アクアト、岐阜かかみがはら航空博物館、浄化センター、花フェスタ記念公園、ぎふ清流里山公園

他にも

木曽川鶴飼、川上貞奴ゆかりの貞照寺・萬松園、学びの森、百十郎桜、承久の乱合戦供養塔、中山道鶴沼宿・新加納陣屋公園、炉端遺跡など

各務原市には魅力たっぷりの集客施設や観光資源がたくさんあります。

魅力の発信とブラッシュアップ（魅力の向上）を地域の皆さんと一緒に頑張りましょう！

木曽川再発見プロジェクト関連の様々な取り組み



7月28日 各務原木曽川 かわまちづくり会

河川環境楽園のなかにある「自然共生研究センター」で行われた「各務原木曽川 かわまちづくり会」の会合に参加しました。かわまちづくり会の役員の方から木曽川三派川の「北派

川の夢プラン」計画の概要、国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センターの研究員の方からは、河川環境楽園や木曽川の国交省の研究取り組みについてご説明をいただきました。私からは、岐阜県が6月補正予算3000万円を計上した「木曽川再発見プロジェクト」について、「木曽川麒麟の会」の活動や県の今後の取り組みについて説明しました。併せて、「三派川夢プラン」に対してもサイクリングロードの活用やポケットパークの設置、前渡地区のまちづくり会との連携による各務原市の木曽川堤防内緑地の活用について提案しました。



9月7日 国土交通省 中部地方整備局

木曽川上流河川事務所への要望活動

「木曽川麒麟の会」のメンバーと観光担当部の県職員さんとともに、国土交通省 中部地方整備局木曽川上流河川事務所を訪問し、事務

所長に対して活動の報告及び要望を行いました。木曽川中流域の広域連携について、麒麟の会としてまとめた提案をしながら、サイクリングロードや水辺空間を活かした公園整備などの要望をしました。木曽川上流河川事務所としても、水辺空間の整備について検討に入っているとおりであり、こちらの提案や要望に対しても大きな関心を示していただきました。木曽川の自然や景観、歴史や文化を最大限に活かして、観光や地域交流の活性化につながる事は夢のあるビッグプロジェクトなので、成果ができるように今後も取り組んでいきます。

10月11日 木曽川流域 地産地消

「第3回 木曽川流域 地産地消を楽しむ会」が犬山市栗栖の野外活動センターで開催されて、「SDGsから紐解く木曽川の可能性」という議題で、幅広く意見交換が行われました。農業生産者や食品業者、大学関係者、料理研究家、飲食店経営者、観光関係業者、マスコミ関係、行政関係者など幅広い分野からの参加者で、それぞれの立場から「木曽川流域の活性化」や地産地消、食育、観光施策などについて情報発信が行われました。想像していたよりも幅広く素晴らしい情報交換ができて有意義な会合で、参加者からのそれぞれの発言を聞きながら「地方創生や活性化には、それを支える地域人材」の重要性を改めて感じました。今回は、愛知県議会議員の原さんからのお誘いで参加して「木曽川再発見プロジェクト」について皆さんにご紹介しましたが、今後「木曽川麒麟の会」と具体的に交流活動や情報交換を深めることができると思います。



11月19日 観光庁「誘客多角化等のための

魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業

観光庁の「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業として行われた「地域のV字回復の核となる鶴飼&遊覧船コンテンツ

造成」事業に参加しました。木曽川鶴飼の屋形船で、国宝犬山城を愛でながら飛騨木曽川国定公園で嗜むフランスブルゴーニュワインを楽しむワインの基礎知識を学ぶというコンセプトでした。行政や商工会議所、観光協会の皆さんが参加して、アンケートや様々な意見交換が行われていたため、今後遊覧事業や船上ウエディングなど木曽川を活用した様々な事業展開が期待されます。岐阜県と愛知県、各務原市と犬山市、さらには木曽川中流域の市町が連携して観光にとどまらず、交流人口の増加や農業の活性化など様々な地方創生につながっていくと思います。

令和2年第4回岐阜県議会 9月定例会においての一般質問

1 コロナ禍における経済活動支援策について

商工労働部長

- (1) 設備投資費用を支援する補助金の今後の対応について
- (2) 設備投資費用を支援する補助金におけるリースの導入について

2 コロナ禍における社会活動支援策について

- (1) 感染防止に配慮した高齢者の地域活動のあり方について
- (2) 自治会活動への影響と活動再開にあたっての市町村支援について

健康福祉部長

環境生活部長

3 大型住宅団地に対する施策について

都市建築部長

10月1日県議会定例会一般質問に登壇して、3項目5点について、商工労働部長と健康福祉部長、環境生活部長、都市建築部長に質問しました。商工労働部長の答弁に対して少し物足りない点があったので、再質問に登壇しました。設備投資の補助金に対してのリース会社との共同申請とリース契約の導入について、再質問をして、もう少し中小企業の立場でメリットを考えて導入検討をして欲しいと付け加えました。再質問については、原稿の用意もなく即時に質問内容を考えなければならず、対応が難しいので議員になって2回目ですが、訴えるべきことは確実に議場で訴えたいと思います。



「企業の設備投資について」

コロナ禍で失速している経済対策の一環として、企業の設備投資に対する補助金の拡充や補助金のリース会社との共同申請について新設することを提案しました。企業の努力と行政の支援で厳しい状況を乗り越え、活力ある地域に甦るように働きかけたいと思います。

「大型住宅団地に対する施策について」 ～住み続けられるまちづくりを SDGs～

11 住み続けられる
まちづくりを



SDGsの11番目に「住み続けられるまちづくりを」という目標が、人々が暮らしていくうえで住居環境はとても重要であるという観点で盛り込まれています。一般質問においては、大型住宅団地での「リビングラボ」の取り組みの紹介をしながら、行政を中心として住民と協働する「住み続けられるまちづくり」の必要性を訴えました。大型住宅団地に限らず、「魅力ある岐阜県、そして各務原市」に向けて、住みたいと思うまちづくりに取り組んでいきます。



岐阜県障がい者総合就労支援センター

障がい者の「働きたい！」をワンストップで支援

令和2年4月ぎふ清流福祉エリアに開所

岐阜清流福祉エリア（岐阜市学園町）には、「岐阜希望が丘特別支援学校」や「福祉友愛アリーナ」「福祉友愛プール」「中央こども相談センター」など福祉に関する施設が集約されています。そのエリアに障害者の方々のために「就労支援」「職業訓練」「職業紹介」「定着支援」4つの機能を備えて、身体・知的・精神の3障がい全てを対象として、個々の特性に応じた支援を行うセンターが開設されました。

就労支援 岐阜県障がい者雇用企業支援センター

障害者を雇用する企業と企業で働く障がい者を支援します

職業訓練 岐阜県立障がい者職業能力開発校

一般就労を目指す障がい者の知識や技能の習得を支援します

職業紹介 岐阜県立ハローワーク

就職を目指す障がい者と企業のマッチングを支援します

定着支援 障がい者就業・生活支援センター

働きたい障がい者、働く障がい者の
就業と生活を一体的に支援します

最近よく聞く発達障害・・・

発達障がいは、脳機能の発達に関係する生まれつきの障がいです。発達障がいがある人は、コミュニケーションや対人関係を作ることが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とは「変わった人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが親のしつけや教育の問題ではなく、脳障がいによるものだと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

特別支援学校と連携することで教育と福祉が一貫する就労支援体制を整えました。私も当センター開設までの支援や各種団体・企業と特別支援学校や教育委員会との技能指導及び就労支援協定のマッチングに積極的に取り組んできました。



2010年10月からブログを書き始めて10年が経過しました。日々の活動や政治理念・想いを書き続けています。

8月11日 高山市長との懇談

朝一番で高山市役所で高山市長から、7月に発生した豪雨災害とコロナウイルスの影響で大打撃を受けている観光業や宿泊業の現在の状況とご要望をお聞きする機会がありました。その後、高山市内から長野県側まで158号線で、さらに折り返して平湯から471号線を神岡まで、現場十数カ所を視察しながら130キロの道のりを県議会議員3人で移動しました。道路が河川によって崩落したことや土砂災害による通行止めになった為の地元住民の影響、地元業者の懸命な復旧作業や片側通行の現状や今後の復旧復興について地元住民の方々からお話を聞く機会もいただきました。災害の少ない平野部の各務原市に住んでいる私にとっては、驚くばかりの災害状況でしたが、治山や治水の大切さと必要性を実感するとともに、生活を支えている道路の強靱化は災害に対して重要であることを学びました。



8月23日 コロナ禍における岐阜県の経済政策

コロナウイルス感染が少し落ち着いたと思っておりましたが、昨日各務原の50代の2の方が感染したと県から報告をいただき、まだまだ予断を許さない状況であると感じています。社会経済活動にも大きな影響を与えているところであり、昨日は自民党岐阜県支部連合会青壮年議員連盟の勉強会に、岐阜県商工政策課長をお招きして「コロナ禍における岐阜県の経済政策」という演題で講演をいただきました。岐阜県の具体的な経済政策について、1、感染拡大防止期における対策、2、経済の再生に向けた対策、3、観光のリスタート、4、社会経済の変容（デジタルトランスフォーメーション等）の項目ごとに、補正予算の内容を含めて丁寧にご説明いただきました。青壮年議員連盟については、立ち上げから関わり、昨年まで2年間会長を務めていたので、こうした勉強会に県内の市町村議員の方々が多く受講して、交流や情報交換していただくことを嬉しく思います。

9月9日 岐阜県の医療に関する懇談

先日の常任委員会にお招きした病院経営者でもある医師から、色々なご意見や医療に関するお話をお聞きする機会があり、大変勉強になりました。海外での医療経験も豊富な先生から、海外の事例や日本の医療事情の良いところや改善すべき点を具体的に教えていただきました。医療費の増大は、高齢化が進むなかで日本の大きな課題ですが、医療従事者の配置や経営の効率化などで、大きく改善できる可能性を知り、岐阜県としてできることも研究したいと思えます。コロナウイルス対策やPCR検査体制、ワクチンや薬などの治療法などのお話もお聞きしましたが、厳しい状況のもと岐阜県内で取り組んで頂いている医師や医療従事者、病院に対して改めて心から感謝します。

10月17日 各務原市レクリエーション協会

県営各務原公園で行われた「スポーツレクリエーション体験広場」に、各務原市レクリエーション協会会長として参加しました。あいにくの雨だったため、芝生広場で行われる予定だったイベントは、管理棟の室内で開催することになりました。種目についても、ターゲットボードゴルフなど中止せざるを得ない種目もあり、輪投げとラダーゲッターのみとなりました。来年の「ねんりんピック」に向けて、「レクリエーションフェスティバル2020」として来年の2月まで、様々な行事が開催されるので、多くの方々に参加していただけるように発信していきたいと思えます。



10月25日 秋晴れの中での地域行事

私が住んでいる地域の自治会と街づくり委員会、ボランティアの方々によって、「第4回秋の自主防災と収穫祭」が盛大に開催されました。雄飛ヶ丘公園の大木の並木が抜根された場所に、有志でサツマイモを栽培し始めたことを契機に、その収穫祭と自主防災の行事として4年前から開催されています。コロナ禍で感染対策しながらの開催でしたが、地域の子供さんからシニア世代の方々まで多くの皆さんが参加して、収穫されたサツマイモの雑炊やお味噌汁を美味しく味わいながら、秋の晴天のもとで楽しんでいました。家にこもりがちであった高齢者の方々も、天気が良く開放的な公園で地域の子供たちと触れ合いながら楽しい時間を過ごされていました。こうしたイベントは地域のリーダーとなる人々がいてこそ実現できる行事だと感じました。



11月21日 森林の未来を考える会

岐阜市内のホテルで「森林の未来を考える会」主催で林野庁長官を講師にお招きして、「森林・林業・木材産業の情勢について」の演題で、講演会が開催されました。林野庁長官の約1時間の講演では、林業経営や治山対策、木材需要の拡大と利用促進による林業経営の安定化、国土強靱化や治山・防災、山林の公益的機能の観点から継続的に適切な予算の確保が必要であると強く訴えられました。昨年農林委員長として視察を行った「コンテナ苗」や「ICTを活用したスマート林業」のお話もありましたが、林業経営のイノベーションや効率化には限界があるので、都市部で生活する人たちが「木材の需要拡大や利用促進」に対する理解と認識が不可欠だと感じました。私は県議会議員になるときのスローガンの一つに「水と空気はタダじゃない」と掲げていましたが、森林の公益的機能や国土保全、災害防止などを踏まえて、森林の適正な管理のためには、新設された森林環境贈与税では税源としてまだ不足している現実をしっかりと伝えていくべきだと思います。

12月4日 若い力とセンス

昨日、岐阜市に本社を置く会社の30代の若い代表者（各務原出身）とお話する機会を頂きました。デザイン企画やイベント企画などを20代の若者10数人で運営している会社だそうですが、各務原市のカフェや大きなイベントを立ち上げた経緯も聞いていたので、面談できることを楽しみにしていました。様々なお話をお聞きするとともに、私の若き頃のイベント企画のお話や現在の政策の紹介をしながら1時間以上にわたって有意義な情報交換が出来ました。岐阜県や各務原市の交流人口を増やししながら、国内外に情報発信をしていく事は地域の大きな活力を生み出します。彼らのような若者たちのそうした取り組みを頼もしく感じました。



まつおかまさと
松岡正人事務所



【事務所】〒504-0908

岐阜県各務原市那加織田町 2-5-1

【TEL】058-389-6665

【FAX】058-389-6676

【E-mail】shiwase@yaranaakan.jp

・ブログ

<https://ameblo.jp/yaranaakan/>

・ホームページ

<http://yaranaakan.jp/>

・Facebook

<https://www.facebook.com/pages/松岡-正人/131987690330451>